

地域における雇用創造（事業評価）インターンシップ

グラウンドワーク・インターンシップの受講生には、626名の未就業者（求職中・起業準備中・主婦・年金生活者等）や906名の学生が含まれており、102名よりインターンシップで学んだことをいかし、あるいはインターンシップが直接的なきっかけとなり、就職や起業を果たしたという報告がありました。（具体的な事例については、P31をご参照ください。）

就 職	81名
起 業	21名
合 計	102名

また、インターンシップによる意識の変化をみるために、研修受講時の現職カテゴリーについて、「学生」「未就業者」「NPO関係者」「その他」の4つに分類して、比例配分による報告書のランダム・サンプリングを行い分析したところ、特に記述が多かった項目は以下の通りでした。

意識の変化	合 計	内訳（現職カテゴリー別）			
		学生	未就業者	NPO関係者	その他
サンプル数	158	59	31	25	42
人のつながりの重要性の認識	114	42	18	12	42
学習意欲の高まり	75	31	14	5	25
NPO・社会的企業への関心	49	9	9	8	23
社会貢献への意欲の高まり	35	9	10	3	13
地域課題の積極的探究	31	19	3	3	6
自分自身の可能性への気づき	27	5	5	4	13
起業意欲の高まり	22	3	5	4	10
環境保全への意識の高まり	21	7	4	2	8

※有意水準5%を満たす総サンプル数 158、意識の変化8項目に対して複数回答有

最も高い意識の変化が見られた項目は、「人とのつながりの重要性の認識」についてで、これは全ての現職カテゴリーに共通していました。報告書の記述からは、特に集合研修においてグラウンドワーク三島による市民・NPO・企業・行政のパートナーシップの事例を学んだことが大きな契機となったことが伺えました。また次にポイントが高かった「学習意欲の高まり」については、集合研修における知識の習得と、OJT研修における現場体験という研修の組み合わせについての記述が目立ち、特に学生において顕著な傾向となっていました。その他、「NPO・社会的企業への関心」、「社会貢献への意欲の高まり」、「地域課題の積極的探究」、「自分自身の可能性への気づき」、「起業意欲の高まり」、そして「環境保全への意識の高まり」についても一定のポイントが集まり、これらの意識の変化は、いずれもNPO・社会的企業の担い手となるにふさわしいものであると言えます。